

CAMPUS NET

特集

石川県立看護大学が推進する 4つの視点



5年ぶりに現地で開催されたアメリカ研修（templarsquareタバナクル合唱団のコンサートにて）（2024年9月）

／ 石川県立看護大学の「今」を発信！SNSをご覧ください！ ／

公式YouTubeチャンネル

大学紹介や学生生活、講義の風景など、石川県立看護大学の学びの特徴や魅力を発信しています。



公式Instagram

大学の日常やイベントの様子など、楽しいキャンパスライフを紹介します。



vol.46
NOVEMBER
2024

石川県立看護大学が推進する

4つの視点

本学では以下の4点をこれからの看護職、看護研究者を育成するために特に重要と考え、強化を進めています。今号では、現在、進めている取り組みについてご紹介します。

1

DXの推進

初めて、病院実習でのデジタル化を実施して

DX実習記録部会長 石川 倫子(基礎看護学 教授)

2024年度の基礎看護学実習IIから、学生と教員に加えて実習指導者も実習記録の記載・保管を電子化する臨地実習支援システム®(以下、システム)の利用を開始しました。また、システムをモバイルWi-Fiの使用許可された病棟の一角で活用しました。これには病院の看護部とシステムエンジニア(SE)の多大なるご理解とご協力のもとで実現ができました。

実際に、実習指導者はタブレットやパソコンを用いてシステム内の学生の実習計画と電子カルテとを並べて指導を行ったり、カンファレンスでは学生と実習指導者、教員がシステム内の学生が立案した看護計画を共有し、意見交換を行ったりしました。実習指導者からはいつでも記録が見られて便利になった等の意見があり、システム導入の目的の一つである指導の効率化を図ることができたのではないかと考えます。一方で、病棟での活用には課題があり、今後も実習病院と検討を重ねていきたいと思っています。



2

国際的な視点での看護

アメリカ研修

～深い愛と大自然に抱かれて輝きを増した21の宝石

国際交流委員長 戸部 浩美(小児看護学 教授)

9月5日から18日の2週間、現地でのアメリカ研修が5年ぶりに再開され、学生21名が参加しました。ユタ州プロボ市のブリガム・ヤング大学では、現地学生と講義に参加し、その積極的な姿勢から刺激を受け、最新のシミュレーション教育を体験し、迅速な判断力やチームワークを養う大切さを学びました。ご寄付いただいた浴衣を持参して日本文化を紹介して交流を深めました。ホームステイ先の家族や地域の人々との日常の交流を通してアメリカの文化や習慣を間近に体験し、英語のコミュニケーション能力も格段に向上しました。アーチーズ国立公園やグレートソルトレイクを訪れユタ州の大自然を満喫して心身のリフレッシュを図ると共に、開拓時代の史跡や人道支援施設を見学し、社会に貢献する意義を深く考える機会も得ました。日々多くの方々からの惜しみない愛と助けを受け、学生は大いに自信を深め、国際的視野を広げ、異文化理解を深めることができました。教員3名は、日に日に輝きを増す宝石のような彼女たちの成長を目にして、言葉に尽くせない深い喜びと感謝を感じました。この特別な経験を心に留め、今後も本学、地域、世界で大いに活躍することを期待しています。





3

産学連携の推進

共同研究講座ウェルビーイング看護学

共同研究講座ウェルビーイング看護学 共同研究講座教授 松本 勝

産学連携の一つの形として大学と企業の共同研究があります。本学では企業との共同研究を通じて社会・現場のニーズに応じたモノづくりをタイムリーに進め、社会実装を実現するための初の共同研究講座を2023年に開設いたしました（共同研究講座看護理工学）。共同研究講座ウェルビーイング看護学は、株式会社モルテンの出資のもと2024年度に開設されました。医療的ニーズをもちながらも在宅で療養する高齢者が寝たきりや座りきりの問題を回避しながら安全で快適な生活を送るためにはセンサ技術・ICTを活用したモニタリングや異常を早期発見するAIなどによる新しいホームケアシステムの確立が欠かせません。そこで本講座では、在宅療養者の幸福寿命延伸、ウェルビーイングを実現するための医療機器・福祉用具の開発と実装を行っています。具体的には、高齢者が安全で快適に長時間椅子やベッドで過ごせるための条件の検討や座位での身体状態のモニタリング手法の開発、ケアリコメンデーションシステム、遠隔看護システムの構築に取り組んでいます。

4

防災や災害時の対応に関する教育・研究の充実

災害に強い看護職者の育成に向けた具体的な取り組み

学部長 川島 和代

真田学長は、本学の新たなビジョンのひとつに「災害に強い看護職者の育成」を掲げられました。言うまでもなく令和6年1月1日のマグニチュード7.6の未曾有の被害に見舞われた能登地域にもっとも近接した大学として、本学が取り組むべき課題と位置づけられたものです。災害はあらゆる発達段階の方々の生命や生活、人生を奪ってしまう可能性があります。その後の復旧・復興には長い年月が必要です。その方々の生命や生活を守り、人生を生き抜くに必要な手立てを当事者とともに考え、実践していく力が必要です。

令和6年度の開学記念日（5月29日）には本学が取り組んだ被災者支援を通して、被災者の生活や心身への影響、地域の復旧・復興に看護職者としてどのような行動が求められるのかとともに考える時間を創りました。災害教育研究の専門家として神原咲子先生（神戸市看護大学 災害看護学・国際看護学 教授）に基調講演をお願いし、学生等の発表にコメントを頂きました。

また、平常時の備えから発災後の緊急時、災害から回復していく全過程を支援できる基盤の能力を高めるために、本学では希望する教職員、学生・院生に対して防災士の資格取得のサポートを開始しました。災害の種類・メカニズム、法令・支援制度等を学び、さまざまな実践場面で活用できる知識と技術の習得につとめているところです。



オープンキャンパス

大学の魅力発信！ 2024 オープンキャンパス(夏・秋)

中道 淳子(老年看護学 准教授)

オープンキャンパスは昨年度から完全対面での実施となり、本学に興味をもった高校生・保護者をお揃いの水色ポロシャツを着た在学生在が笑顔で迎えました。今年度の夏のオープンキャンパスは7月13日、秋のオープンキャンパスは10月12日に実施し、どちらも多くの高校生・保護者にご来場いただきました。来場によってまずは学びに適した立地と環境の魅力を体感いただけたと思います。

大学紹介に続き、キャンパスライフ紹介では、学生生活の様子を在学生在がプレゼンテーションしました。全体説明の後は、看護体験や模擬講義、キャンパスツアー、研究ミニイベント、個別相談などのプログラムがあり、自由に選んで参加していただきました。どのプログラムでも、本学教職員と在学生在が協力して実施しており、学生一人あたりの教員数は北陸の看護系大学では最大級という本学の魅力を十分に発信することができました。



看大祭

第25回看大祭スローガン 『Today is a gift. 一楽しみこの瞬間を一』

大江 真吾(精神看護学 講師)

第25回石川県立看護大学大学祭は10月19日に行われました。今年の看大祭スローガンは、1月1日に発生した令和6年能登半島地震を経験し、学生たちが日々の生活が当たり前ではないことを強く感じたことから考えられました。このスローガンに込められた大学祭実行委員の願いは、地震で被害を受け、辛い思いをした学生、地域の方々、教職員に向けて少しでも楽しい時間を贈りたいというものでした。雨が降る中でしたが、当日のステージ企画には多くのかほく市の方々に参加いただき、また、多くの方にご来場いただき大変賑やかな大学祭となりました。大学祭実行委員が力を合わせ、一から企画し、当日の運営までやり切ることができました。大学祭終了後には大学祭実行委員長から後輩へ、これまでの協力への感謝と来年度への期待のメッセージが贈られていました。来年度の大学祭もよろしくお願いいたします。





教授 臺 美佐子
Misako Dai

がん看護学，リンパ浮腫

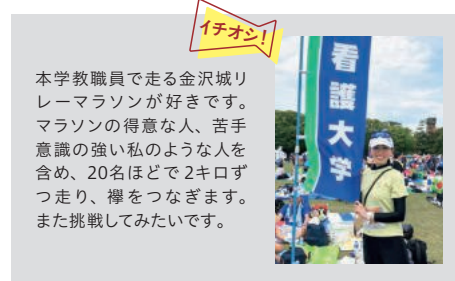
PROFILE

群馬大学卒業後、慶應義塾大学病院で看護師として勤務。金沢大学大学院で博士号を取得し、金沢大学・東京大学・藤田医科大学で教育・研究に従事し、2023年本学に着任。今年度、浮腫ケア看護相談室を開設。

リンパ浮腫患者のウェルビーイング向上に向けたハイブリッドケアシステムの構築

本学の方針と強みを活かし、リンパ浮腫分野で4つの研究を進めています。第1に「遠隔と対面を組み合わせたハイブリッドケアシステムの構築」、第2に「リンパ浮腫エコアセスメント法の開発」、第3に「リンパ浮腫患者の皮膚の細菌叢や酸化ストレスに対応するアドバンススキンケア方法の開発」、第4に、「衣服快適性とファッション性を付与した弾性ストッキング・靴の開発」です。特に第1の研究では、被災地域や過疎地域の患者の孤立を防ぎ、浮腫重症化を阻止するといった点では、今の石川県で喫緊の課題といえます。そこで遠隔システムに着目して研究し、浮腫ケアへの導入可能性が示されましたが、皮膚のアセスメントやケア、陰部浮腫の相談など、対面でしか満たせないニーズも明らかになりました。そこで今年度、地域連携事業として「浮腫ケア看護相談室」を開設し、遠隔では対応が難しい患者

のニーズに応えられる環境を整えました。今後、研究を通して、遠隔システムと相談室とのハイブリッドケアシステムを完成させ、浮腫の減少や蜂窩織炎再発率の低下、患者のウェルビーイングの向上を目指していきます。



本学教職員で走る金沢城リレーマラソンが好きです。マラソンの得意な人、苦意識の強い私のような人を含め、20名ほどで2キロずつ走り、櫂をつなぎます。また挑戦してみたいです。



教授 美濃 由紀子
Yukiko Mino

精神看護学

PROFILE

岐阜県高山市出身。東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士後期課程（精神保健看護学専攻）修了。博士（看護学）。国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所、東京医科歯科大学大学院准教授を経て、2022年から現職。

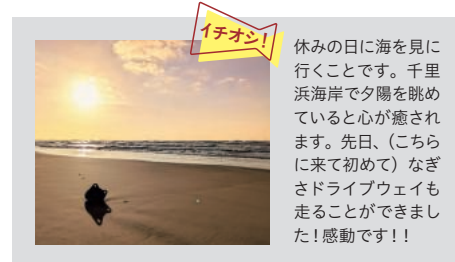
「司法精神看護学」教育のカリキュラムの開発と多職種連携教育方法の検討

日本における「司法精神医療」は、2005年に施行された「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（医療観察法）」によって飛躍的に発展した新しい領域です。精神疾患が原因で殺人・強盗・傷害事件等重大な他害行為を起こしてしまった触法精神障がい者は、裁判所の審判を経て専門医療機関で治療を受けることになります。そこでは患者の人権擁護と社会保安の両立を目指した徹底的な多職種チーム医療と治療プログラム等が実施されており、患者の早期社会復帰と再犯の防止が実現しています。

私は、医療観察法施行以前から看護ガイドラインの策定やモニタリング研究に携わってきましたが、専門病棟でのケアでは看護職の果たす役割は非常に大きく、複雑かつ多岐にわたります。「司法精神看護学」は、精神科看護に必要な能力に加え、関連法規・制度に関する知識や高度な実践能力が求められるため、精神看護のサブスペシャリティとしてその専門教育は必須です。しかしながら、「看

護学」における大学・大学院教育は、欧米に比べ立ち遅れており未整備のままで、医学や心理学分野からも大きく後れをとっています。

本研究では、「司法精神看護学」の学部・大学院教育の実態を明らかにすることを通じて、精神看護学のサブスペシャリティとしての教育基盤の確立にむけた「司法精神看護学」教育のカリキュラムの開発と多職種連携教育の方法を検討することを目的としています。本研究の実施は、大学における「司法精神看護学」教育の基盤作りと普及、司法精神医療に携わる看護師の底上げに寄与すると考えます。



休みの日に海を見に行くことです。千里浜海岸で夕陽を眺めていると心が癒されます。先日、(こちらに来て初めて) なぎさドライブウェイも走ることができました！感動です！！

新任教員紹介

今年、赴任した先生方です。よろしくお願いします！



①出身地 ②前任 ③現在の仕事内容 ④趣味



北村 言 老年看護学 教授

- ①三重県津市
- ②東京大学
- ③高齢者の生活を支える看護ケアについて教育・研究を行っています。
- ④旅。



木田 亮平 基礎看護学 准教授

- ①青森県大鰐町
- ②東京大学大学院医学系研究科
- ③看護の基本となる考え方や理論、技術について教えています(基礎看護)。研究では、看護や医療組織のあり方や看護資源の適正化に関する研究を行っています。
- ④読書、映画鑑賞、動物鑑賞、散歩。



宮崎 梓 看護キャリア支援センター 講師

- ①埼玉県越谷市
- ②東京医療保健大学
- ③本年度開講した皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程で教員をしています。熟練した技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができるスペシャリストの育成に取り組んでいます。
- ④いろいろな舞台を観劇すること。



幅 大二郎 共同研究講座ウェルビーイング看護学 共同研究講座講師(理学療法士)

- ①長野県松本市
- ②東京大学大学院医学系研究科附属グローバルナースングリサーチセンター
- ③在宅療養者は車椅子に座りきりによって多様な問題が生じます。そこで長時間乗っても快適な車椅子を開発し、日々の生活を支援することで幸福寿命の延伸を目指します。
- ④高校まで野球をやっていました。いまは野球観戦が趣味です。

IPNU NEWS 大学の動きや取り組みを紹介します



TOPICS

自治会イベントで広がる学年を超えた交流の場

2024年度は竹内咲季さんが自治会長に就任し、自治会として多彩な活動を行っています。

4月の新入生歓迎会ではサークル紹介や大学生活に関する情報交換を行いました。6月の体育祭ではドッジボールやソフトバレーを通じて親睦を深めました。7月には「七夕笹流し」に参加し、学生の願い事が書かれた笹を浅野川に託しました。また、今年度からは自治会主催で2・3年生の異学年交流を行い、3年生から2年生に実習のアドバイスをを行いました。10月には大学祭でチョコバナナを販売しました。11月には1・2年生の異学年交流で初めての实習に向けて情報交換を行う予定です。(講師 大江 真吾)



TOPICS

金沢マラソン2024に参加しました。

2024年10月27日(日)に行われた金沢マラソン2024に学生19名、教員3名がボランティアとして参加しました。今年度はゴール地点である石川県西部緑地公園陸上競技場で完走メダル手渡し、手荷物返却の誘導を担当しランナーの皆さんを労いました。また、本学からはランナーとして学生や教職員も参加し、学生たちに出迎えられていました。また、卒業生もボランティア、ランナーとして参加していました。石川県立看護大学は金沢マラソンの団体ボランティアに登録しています。ボランティア、ランナーとしての参加をお待ちしています。

(助教 千田 明日香)



学生と住民が協働する 震災復興のまちづくり

私のゼミでは、地域社会を舞台に、学生と住民の方々が協働し、地域の課題解決に取り組んでいます。今回の舞台は、元日の大地震に見舞われた穴水町です。2月20日に初めて訪れてから現在（8月末）まで10回の訪問を重ね、住民の方々とのパートナーシップを築きつつあります。高齢者を中心にした健康チェックのほか、身体を使ったレクリエーションや祭りを支援することにより、こころのケアにもあたっています。住民の方々の表情が訪れるたびに和らいでいることに、学生はやりがいを感じているようです。（教授 垣花 渉）



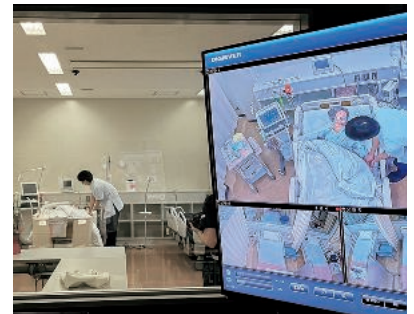
1年生フィールド実習で 炊き出し計画&実施

「ライフライン復旧後の公民館での炊き出し」を想定した計画を作成しました。計画には、衛生管理・栄養状態やアレルギーも考慮しました。学内で炊き出し訓練計画に基づき調理・配食し、振り返りを行い、計画を修正しました。その後、県社協HPの募集を通じて、穴水町の応急仮設住宅団地集会所にて学生の計画に基づいて150食分の炊き出しを行いました。野菜たっぷりの弁当を提供したところ、「手が込んでいて嬉しい」「おいしかったよ」と住民の方にお声かけいただき、微力ながら地域に貢献できたことを実感しました。（准教授 寺井 梨恵子）



看護スキルスラボをリニューアル ICUを再現

今年看護スキルスラボを改修し、演習室と新たに観察室を設置しました。演習室では看護技術習得の強化を図るために集中治療室(ICU)の環境を再現し、高機能な患者シミュレータとICUベッドなどを配置しました。観察室は演習室の技術練習の様子をマジックミラー越しと天井カメラで確認できます。さらに、天井カメラは録画も可能なため、自己練習した技術を録画した画像を見ながら振り返りも可能です。今後は、多くの現職の看護師研修などでもご利用いただきたいと思います。（教授 紺家 千津子）



附属施設 INFORMATION

附属図書館

いぶなサーチを活用しましょう！

附属図書館では昨年度末より、「いぶなサーチ」という新サービスを提供しています。いぶなサーチを使うことによって、大学の所蔵資料（書籍・雑誌・電子ブック等）および国内外のさまざまな学術データベースを一括して検索することができます。また、学術論文の検索の場合、いぶなサーチを利用すればオープンアクセスかどうかの情報も簡単に得ることができます。図書館HPのトップに表示されますので、ぜひ積極的にご利用ください。



地域ケア総合センター

「IPNU地域相談室」 浮腫ケア看護相談の開設

今年度新たに「IPNU（いぶな）地域相談室」を設置し、その活動の一環として、7月からキャンパス内で「浮腫ケア看護相談」を開始しました。リンパ浮腫と診断され、セルフケアにお困りの方とご家族を対象としております。リンパ浮腫療法士およびリンパドレナージュセラピストの資格を持つ看護師（教員）が相談に応じ、専門知識と実践技術を用いてアセスメントを行い、セルフケアをサポートします。好評につき、月1回3名までの予約制となっています。詳細は大学のHPをご覧ください。



看護キャリア支援センター

皮膚・排泄ケア認定看護師教育 実習開始

令和6年4月に入学した皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程30名の履修生は、約4カ月のeラーニングを終え、7月から専門科目を講義や演習で集中的に学びました。本課程では特定行為研修を含んでおり、創傷管理関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連についても学習しました。現在、北陸3県の医療機関で、これまで得た知識と技術を活かしながら、認定看護分野の臨地実習に臨んでいます。



第12回 看護理工学会学術集会の開催

大会長 峰松 健夫（成人看護学 教授）

去る2024年11月2日（土）～3日（日）、石川県立看護大学を会場として第12回看護理工学会学術集会を開催しました。看護理工学とは、看護の現場のニーズを抽出・体系化し、その機序解明によるケアターゲットの同定、新しいケア技術・機器・システムの開発を産官学連携で行う方法論的学問です。

本学術集会では、「バイオとの出会いで広がる看護理工学の多様性（ダイバーシティ）」をテーマとして、石川県立大学学長・西澤直子先生、および東京科学大学教授・三林浩二先生の特別講演、本学教授・小林宏光先生の実験講演をはじめ、日本生物工学会や日本生体医工学会、日本薬理学会との共催・合同シンポジウム、高校生による探究活動の報告会などが行われ、全国から450名を超える研究者や学生が参加しました。

開催に当たり、本学から多くの先生方、大学院生、学部生がスタッフとしてご尽力いただきました。この場を借りて心から御礼申し上げます。



令和6年度 後期 キャンパススケジュール (予定)

卒業研究発表会	12月24日(火)
冬季休業	12月23日(月)～1月6日(月)
補講・試験	2月12日(水)～20日(木)

春季休業	2月21日(金)～
卒業式・学位授与式	3月15日(土)



石川県立看護大学グローバルはまなす基金



開学から20年が過ぎた今日、社会や家族の変化、医療経済の危機に対応した医療の再編が間近いとの声が聞こえてまいります。本学では今後ますます時代や地域にあった看護師・保健師・助産師を輩出する努力を重ねる所存です。そこで、学生・大学院生の国内外研修を推進する事業や、教育・研究活動において地域社会に貢献する事業を推進することを目的に、「グローバルはまなす基金」を設立しました。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附お待ちしております。

お申込み・お問合せ先（石川県立看護大学総務課）076-281-8300

